



各位

2013年5月15日

株式会社 おきぎん経済研究所

おきぎん県内景況・確報(2012年度)

2012年度は、個人消費関連の下支えの動きが継続する中、観光・建設関連も強めに推移していることなどから、「県内景況は回復力が強まっている」となりました。

○消費関連

スーパー・百貨店売上高…スーパー売上高は全店ベースでは前年度を上回ったものの、既存店ベースは下回る。百貨店売上高は前年度をわずかに上回る。
家電卸出荷額…地デジ関連需要の反動などにより前年度を下回る。
新車登録台数…エコカー補助金制度の復活などにより前年度を上回る。

○建設関連

公共工事…市町村や沖縄県発注工事が増加し、前年度を上回る。
住宅投資・建設資材…着工戸数は前年度を上回り、生コン、セメントもともに上回る。

○観光関連

入域観光客…前年度を上回る。
ホテル稼働率…那覇市内大型、西海岸リゾート、ビジネスホテルのすべてにおいて前年度を上回る。
観光施設入場者数…2年連続で前年度を上回る。

○倒産・雇用

企業倒産…件数は前年度を下回り、負債総額は上回る。
有効求人倍率…沖縄県、全国ともに前年度を上回る。

○生産関連

鉱工業生産…沖縄県(4～翌2月数値平均の比較)は前年度を上回り、全国は下回る。
大口電力使用量…前年度を下回る。

○物価関連…消費者物価指数は前年度を下回り、ガソリン(レギュラー)はわずかに上回る。

※お気づきの点、不明な点などがございましたら、ご遠慮なく下記までご連絡ください。

担当: 営銘、上地、喜瀬

電話: 098-869-8711(代表)、ファクシミリ: 098-869-2200

現場主義とお客さまからの信頼

おきぎん県内景況・確報(2012年度分)

◎2012年度 おきぎん「カトリア」景況図

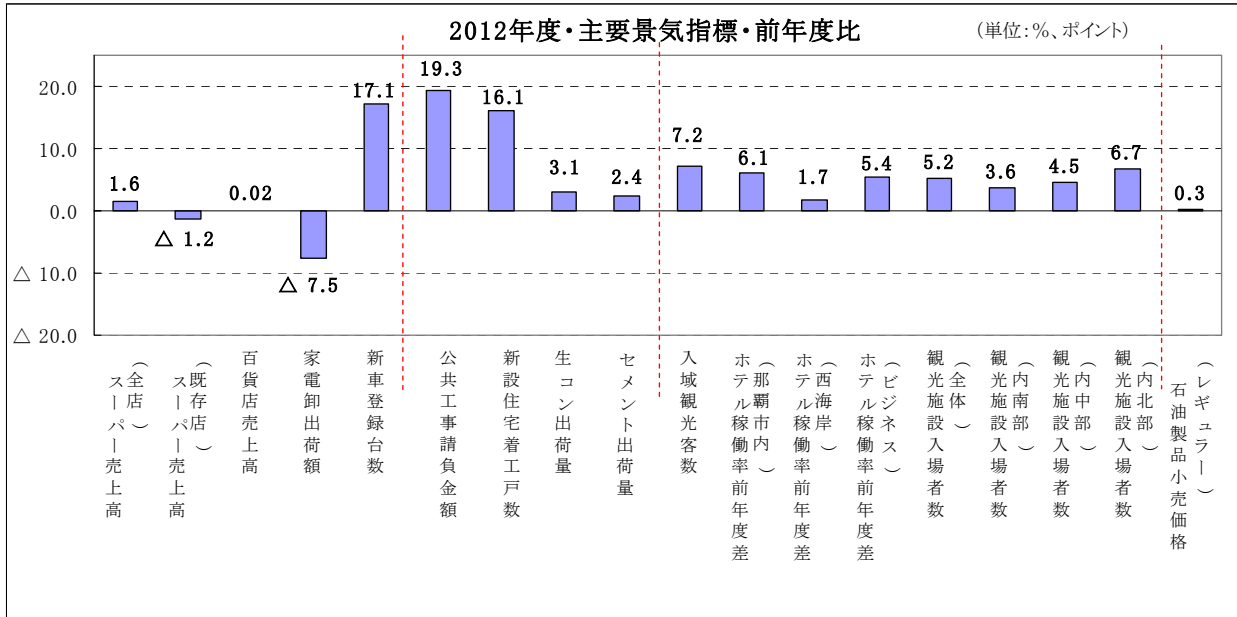


2012年度の県内景況

個人消費関連では、スーパー売上が「全店ベース」で前年度を上回ったものの、「既存店ベース」では下回りました。百貨店売上高は主力である衣料品の売上が伸び悩んだものの、店舗内での新規テナントオープンによるリニューアル効果によりわずかに前年度を上回りました。耐久消費財である家電卸出荷額は地デジ関連需要の反動により前年度を下回り、新車登録台数はエコカー補助金制度の復活などにより前年度を上回りました。

建設関連では、公共工事請負金額が市町村や沖縄県発注工事が増加し、前年度を上回りました。新設住宅着工戸数もウェイトの高い貸家等が押し上げ前年度を上回りました。建設資材関連である生コン、セメントともに前年度を上回りました。**観光関連**では、入城観光客数は震災等の影響に伴う反動増などから前年度を上回りました。ホテル稼働率は、那覇市内主要ホテル、西海岸リゾートホテル、ビジネスホテル全てで前年度を上回りました。観光施設入場者数は2年連続で前年度を上回りました。

このように2012年度は、スーパー売上などの個人消費関連データが継続的な下支えの動きをみせているほか、観光・建設関連も強めに推移していることなどから、「**県内景況は回復力が強まっている**」となりました。

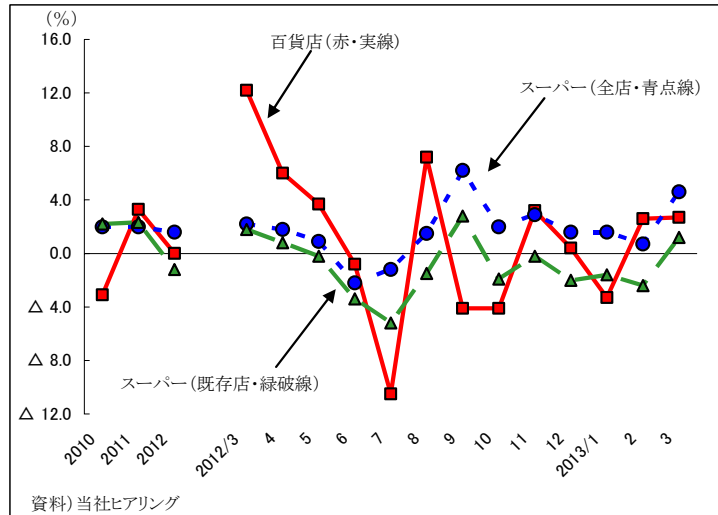


■個人消費:  (ふつう)

①スーパー・百貨店売上高…スーパー売上高は全店ベースは前年度を上回り、既存店ベースでは下回る。百貨店売上高は前年度をわずかに上回る。

単位:%

年度/月	スーパー売上高		百貨店 売上高
	全店	既存店	
2010	2.0	2.2	△ 3.1
2011	r 2.0	r 2.3	3.3
2012	1.6	△ 1.2	0.02
2012/3	2.2	1.8	12.2
4	1.8	0.8	6.0
5	0.9	△ 0.2	3.7
6	△ 2.2	△ 3.4	△ 0.8
7	△ 1.2	△ 5.2	△ 10.5
8	1.5	△ 1.5	7.2
9	6.2	2.8	△ 4.1
10	2.0	△ 1.9	△ 4.1
11	2.9	△ 0.2	3.2
12	1.6	△ 2.0	0.4
2013/1	1.6	△ 1.6	△ 3.3
2	0.7	△ 2.4	2.6
3	4.6	1.2	2.7



注) 前年度比、前年同月比

2012年度の個人消費関連*において、**スーパー売上高**は、「全店ベース(前年度比 1.6%増)」が新店舗効果などにより前年度を上回りました。「既存店ベース(同 1.2%減)」では前年度を下回りました。

品目別(以下、既存店ベース)でみると、家電を含む「家庭用品(同 4.6%減)」が、アナログ放送終了(2011年7月24日終了)に伴う地デジ関連需要の反動等により多くの月で前年を下回り、スーパー全体の売上高を押し下げました。ウェイトの高い「食料品(同 0.2%減)」は、台風襲来や新規店舗との競合により来店客数が減少したほか、うるう年であった前年度よりも営業日数が1日減少したことなどから前年度を下回りました。「衣料品(同 1.8%減)」も、台風の襲来(8月~9月)の影響や冬場(1月~2月)の気温が高かったことなどにより売上が減少し、前年度を下回りました。

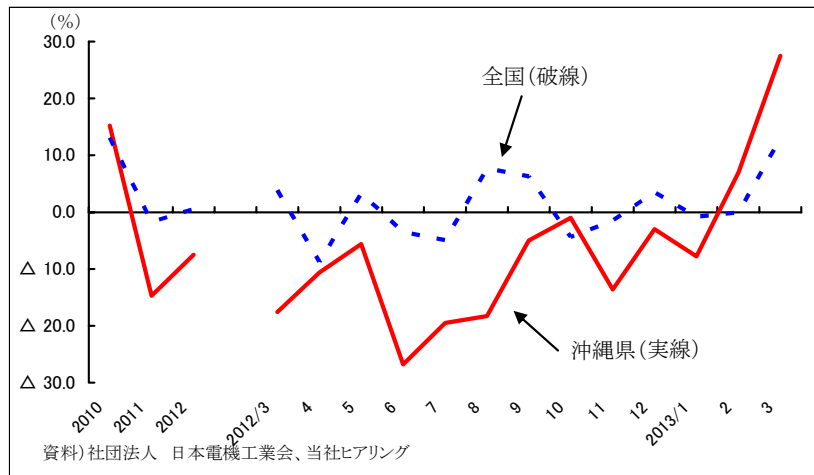
※注1) スーパー売上高(既存店ベース)については、2009年12月よりデータ集計法を変更し、月次データの公表時は速報値であるため、公表後に確定値として改訂する場合があります。従って、時系列で利用する際は最新の公表データを参照すること。

2012年度の百貨店売上高は、店舗内での新規テナントオープンなどにより雑貨などが好調だった一方で、衣料品の売上が伸び悩み、総じてみると前年並みとなりました(前年度比 0.02%増)。内訳をみると、台風の影響による営業日数や来店客数減少に加え、一部店舗の撤退などにより主力商品である「婦人服(同 3.6%減)」が前年度を下回ったほか、売場縮小などにより「子供服(同 31.8%減)」の売上も減少し、衣料品全体では前年度を下回りました(前年度比 3.6%減)。一方、「雑貨(同 2.7%増)」は、リニューアル効果(2012年3月)の継続、「身の回り品(同 2.6%増)」は販売促進活動の効果(セール広告の強化など)により前年度を上回りました。「食料品(同 0.9%増)」は、東日本大震災で落ち込んだ消費マインドの回復などにより前年度を上回りました。

②家電卸出荷額…地デジ関連需要の反動などにより、前年度を下回る。

単位: %

年度/月	沖縄県	全国
2010	15.2	13.1
2011	△ 14.7	△ 1.7
2012	△ 7.5	0.5
2012/3	△ 17.6	3.9
4	△ 10.6	△ 8.7
5	△ 5.6	3.3
6	△ 26.8	△ 3.5
7	△ 19.5	△ 4.9
8	△ 18.3	7.7
9	△ 5.0	6.3
10	△ 1.0	△ 4.4
11	△ 13.6	△ 1.5
12	△ 3.0	3.5
2013/1	△ 7.8	△ 0.8
2	7.0	0.0
3	27.5	13.0



注) 前年度比、前年同月比

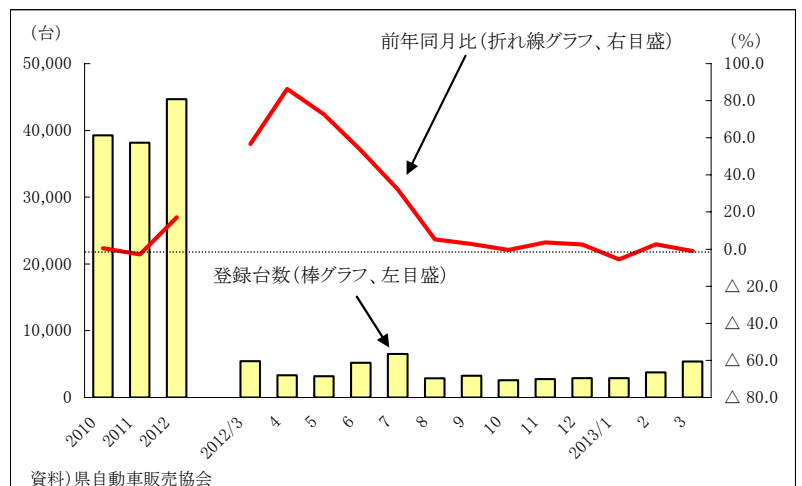
2012年度の家電卸出荷額は、アナログ放送終了(2011年7月24日終了)に伴う地デジ関連需要の反動などによりテレビの売上が低調で全体を押し下げ、前年度を下回りました(前年度比 7.5%減)。内訳をみると、「テレビ(同 62.8%減)」や「DVDレコーダー(同 55.8%減)」が大幅に前年度を下回りました。「洗濯機(同 1.0%減)」は、エコ関連商品の需要が継続的に高まっているものの、高水準であった前年度ほどは伸びず、前年度を下回りました。一方、「冷蔵庫(同 0.7%増)」や「エアコン(同 1.5%増)」は、継続的なエコ関連商品需要の高まりやそれに伴う販売促進強化等により前年度を上回りました。

③新車登録台数…エコカー補助金制度復活などにより前年度を上回る。

単位: 台、%

年度/月	台数	合計	普通乗用車	小型乗用車	軽乗用車
2010	39,266	0.5	8.1	2.0	△ 3.2
2011	38,170	△ 2.8	△ 11.5	3.0	△ 4.9
2012	44,696	17.1	8.6	8.9	27.9
2012/3	5,439	56.7	64.8	77.9	46.9
4	3,323	86.3	205.0	25.5	122.7
5	3,200	72.6	71.5	96.3	68.4
6	5,212	53.2	23.0	46.1	76.7
7	6,511	32.1	41.3	9.7	75.7
8	2,856	5.3	12.9	△ 12.9	24.3
9	3,248	2.7	△ 12.2	△ 12.8	13.9
10	2,613	△ 0.5	△ 27.5	△ 10.6	11.0
11	2,753	3.6	△ 12.7	14.7	3.8
12	2,925	2.5	△ 5.6	2.6	4.1
2013/1	2,902	△ 5.5	△ 25.2	△ 20.7	5.8
2	3,776	2.6	7.4	6.6	2.7
3	5,377	△ 1.1	△ 7.9	△ 6.4	4.5

注) 前年度比、前年同月比



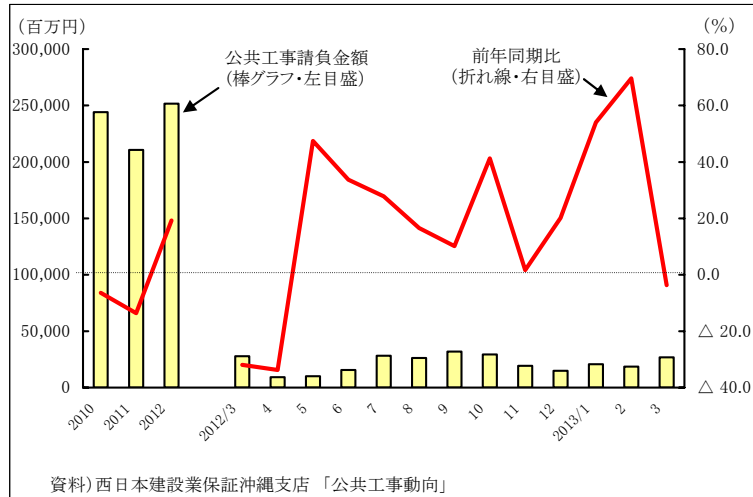
2012年度の新車登録台数は、全体で 44,696 台となり、前年度より 17.1%増加しました。エコカー補助金制度復活(2011年12月)が奏功し、年度前半(4月～9月)に登録台数が大きく伸びました。補助金制度終了後(2012年9月21日終了)は、需要の減少もみられたものの、レンタカー需要などに支えられ、年度全体では「普通乗用車(同 8.6%増)」、「小型乗用車(同 8.9%増)」、「軽乗用車(同 27.9%増)」など、全ての車種で前年度を上回りました。

■ 建設関連:  (やや良い)

①公共工事…市町村や沖縄県発注工事が増加し前年度を上回る。

単位:百万円、%

年度/月	請負金額	前年同期比
2010	244,120	△ 6.4
2011	210,803	△ 13.6
2012	251,586	19.3
2012/3	27,923	△31.9
4	9,119	△33.7
5	10,203	47.4
6	15,724	33.7
7	28,340	27.8
8	26,136	16.6
9	31,974	10.2
10	29,432	41.3
11	19,400	1.7
12	14,996	20.2
2013/1	20,766	54.0
2	18,588	69.6
3	26,905	△3.6

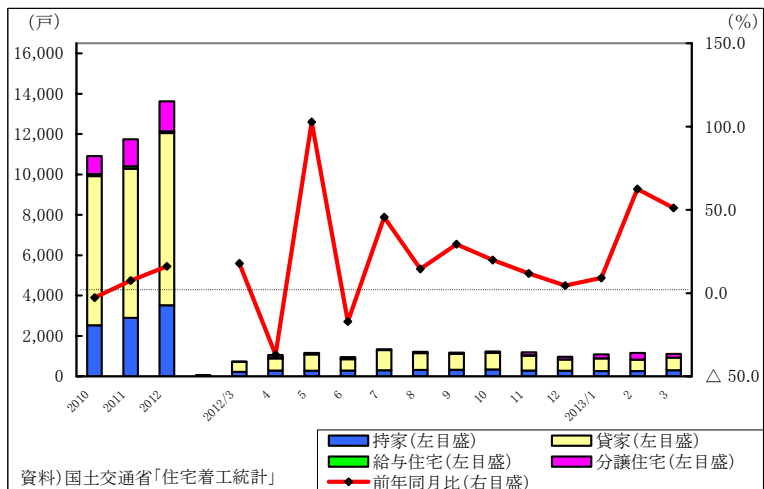


2012年度の公共工事請負金額は、前年度比19.3%増の2,515億86百万円と前年度を上回りました。発注者別請負金額でみると、「国(同4.9%増)」は那覇港臨港道路やトンネル関連工事、「沖縄県(同4.2%増)」は高等学校施設関連工事、「市町村(同48.4%増)」は小中学校施設関連工事、「その他の公的団体(同18.2%増)」は那覇空港旅客ターミナルビル関連工事などにより前年度を上回ったほか、「独立行政法人等(同13.3%増)」も上回りました。

②住宅投資・建設資材…貸家や持家増加等により着工戸数は前年度を上回り、生コン、セメントも上回る。

単位:戸、%

年度/月	着工戸数	前年同期比
2010	10,914	△ 2.8
2011	11,737	7.5
2012	13,623	16.1
2012/3	730	17.7
4	1,062	△ 37.0
5	1,164	102.8
6	954	△ 17.1
7	1,344	45.6
8	1,215	14.5
9	1,168	29.3
10	1,223	19.9
11	1,184	11.7
12	961	4.5
2013/1	1,083	9.1
2	1,162	62.5
3	1,103	51.1



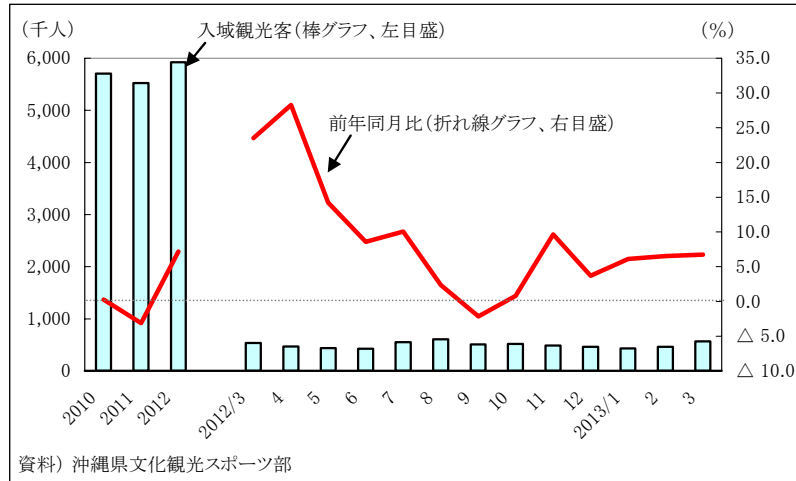
2012年度の新設住宅着工戸数は、全体で13,623戸と前年度より16.1%上回りました。内訳では、ウエイトの高い「貸家(同14.3%増)」や「持家(同21.8%増)」が前年度を上回ったほか、「分譲住宅(同10.7%増)」も上回り、全体を押し上げました。建設資材関連でも、生コンは前年度比3.1%増、セメントも同2.4%増と前年度の出荷実績を上回りました。

■観光関連:  (やや良い)

①入域観光客…2年ぶりに前年度を上回る。

単位:千人、%

年度/月	入域観光客	前年同期比
2010	5,705.3	0.3
2011	5,528.0	△ 3.1
2012	5,924.7	7.2
2012/3		
3	533.1	23.5
4	471.1	28.3
5	434.3	14.2
6	426.4	8.6
7	550.4	10.0
8	607.2	2.4
9	507.3	△ 2.1
10	519.7	0.8
11	483.1	9.6
12	463.4	3.7
2013/1		
1	429.7	6.1
2	463.2	6.5
3	568.9	6.7



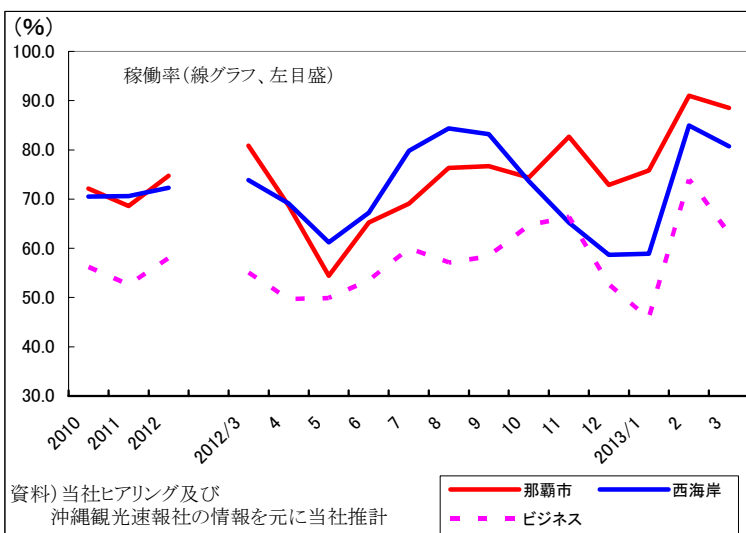
2012年度の入域観光客数は、592.4万人(前年度比7.2%増)となり、2年ぶりに前年度を上回りました。内訳をみると、国内客は554.2万人(同6.0%増)となりました。夏場の相次ぐ大型台風の襲来や、円高に伴う海外旅行地との競合・関東人気商業施設(スカイツリー、TDR)など国内他観光地との競合等の減少要因があったものの、東日本大震災等の影響に伴う旅行自粛の反動増や、LCC3社の新規就航に伴う成田・関西からの客数増加などにより前年度を上回りました。

外国客は38.2万人(同26.9%増)となり過去最高を更新しました。震災等の反動増の他、大型クルーズ船の寄港や航空路線便増加などにより、台湾(同29.2%増)、韓国(同73.5%増)など各主要地域で前年度を上回りました。一方、好調に推移していた中国本土からの入域客数は尖閣問題等の影響を受け9月以降大きく減少しました。

②ホテル稼働率…那覇市内主要ホテル、西海岸、ビジネス全てで前年度を上回る。

単位:%

年度/月	稼働率		
	那覇市	西海岸	ビジネス
2010	72.1	70.5	56.2
2011	68.6	70.6	52.6
2012	74.7	72.3	58.0
2012/3			
3	80.9	73.9	55.1
4	68.7	69.2	49.7
5	54.4	61.2	49.9
6	65.2	67.2	53.5
7	69.0	79.8	60.0
8	76.3	84.4	57.1
9	76.7	83.2	58.4
10	74.4	73.6	64.7
11	82.7	65.2	66.4
12	72.9	58.7	52.7
2013/1			
1	75.8	58.9	45.8
2	91.0	84.9	74.0
3	88.5	80.7	63.0



注) 那覇市内8ホテル、西海岸11ホテル、ビジネス7ホテル

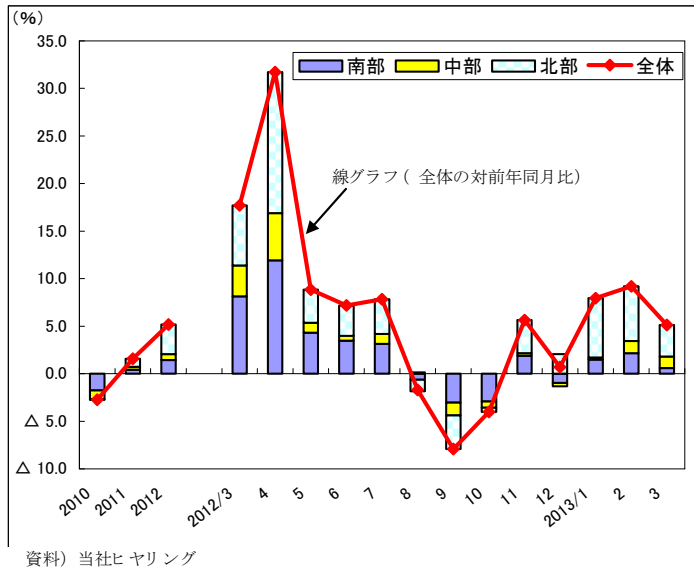
2012年度の県内ホテル稼働率は、那覇市内主要ホテルは74.7%(前年度差6.1ポイント上昇)、西海岸リゾートホテルは72.3%(前年度差1.7ポイント上昇)、ビジネスホテルは58.0%(同5.4ポイント上昇)と全てにおいて前年度を上回りました。

③観光施設入場者数…2年連続で前年度を上回る。

単位:%

	入場者数(前年同月比)			
	全体	南部	中部	北部
2010	△ 2.7	△ 4.3	△ 6.6	△ 0.1
2011	1.6	1.1	2.2	1.9
2012	5.2	3.6	4.5	6.7
2012/3	17.7	20.2	24.5	13.6
4	31.7	29.7	33.4	33.0
5	8.8	10.7	7.5	7.6
6	7.2	8.5	4.3	6.8
7	7.8	9.5	8.9	6.6
8	△ 1.7	△ 1.8	1.0	△ 2.3
9	△ 7.9	△ 8.5	△ 11.0	△ 6.8
10	△ 4.0	△ 6.7	△ 5.1	△ 1.0
11	5.6	4.3	2.0	8.3
12	0.7	△ 2.2	△ 2.6	4.9
2013/1	7.9	3.7	1.5	13.7
2	9.2	5.5	9.6	12.1
3	5.1	1.5	8.6	7.4

*調査対象施設数=南部6、中部6、北部5施設
グラフは全体の寄与度を表示。

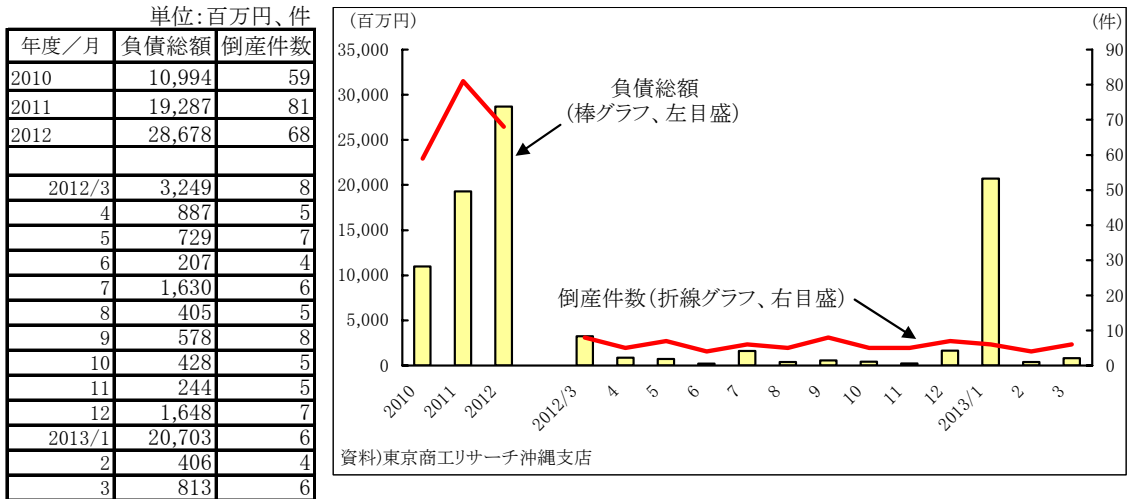


観光施設入場者数は、全体として前年度比 5.2%増加し、2年連続で前年度を上回りました。東日本大震災の影響等に伴う反動増やLCC就航効果などによる入域観光客数の増加に伴い、前年度実績を上回りました。

地域別では、南部にある観光施設が同 3.6%増(2年連続)、中部が 4.5%増(2年連続)、北部が同 6.7%増(2年連続)で全ての地域で前年度を上回りました。

■企業倒産:  (ふつう)

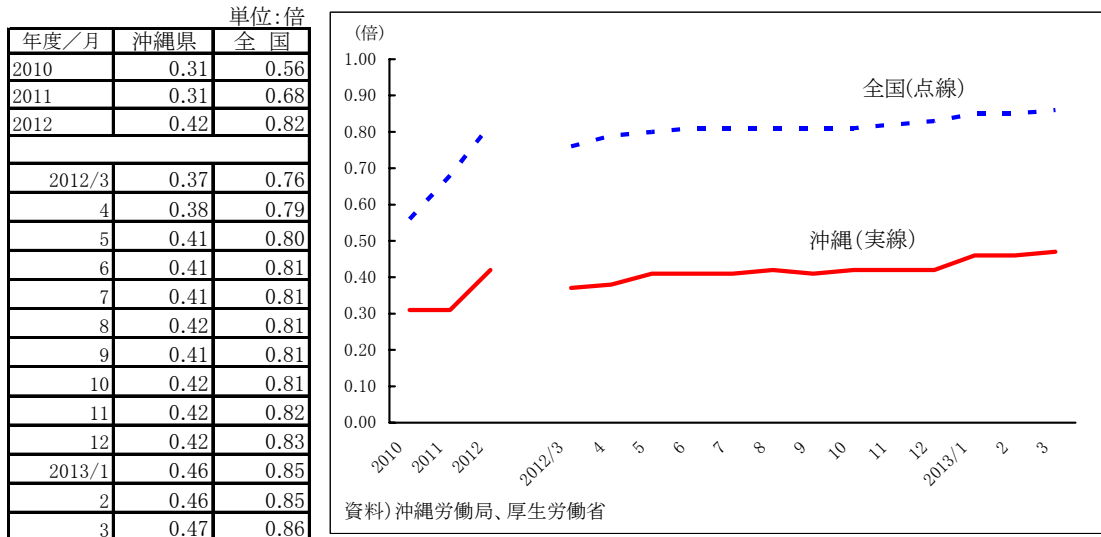
企業倒産…件数は前年度を下回り、負債総額は上回る。



2012年度の企業倒産は、68件(前年度比16.0%減)発生し、負債総額では286億78百万円(同48.7%増)となりました。「中小企業金融円滑化法」の金融支援効果等が継続している中、件数は前年度を下回ったものの、負債総額については不動産賃貸業(読谷村)の大型倒産が発生したため、前年度を上回りました。

■雇用関連:  (ふつう)

有効求人倍率…沖縄、全国ともに前年度を上回る。



注1)月別の数値は季節調整値、年度平均は原数値
注2)季節調整法は、センサス局法Ⅱ(X-12-ARIMA)による

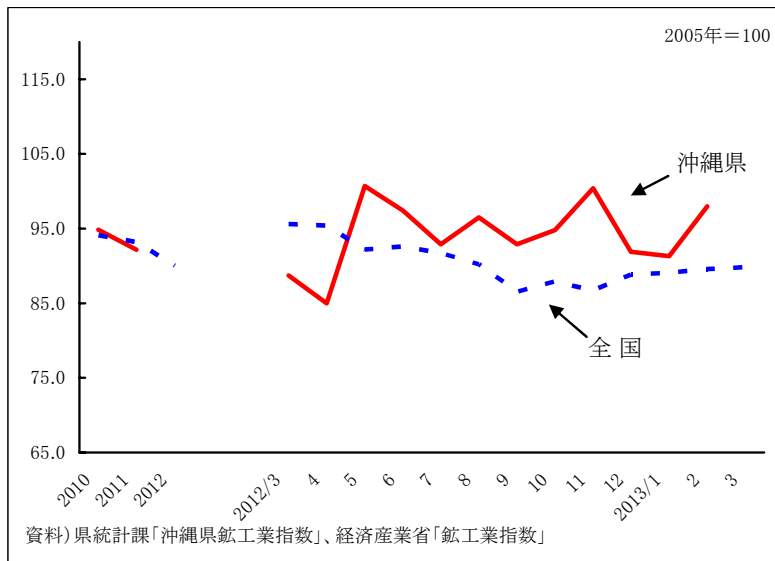
2012年度の雇用状況は、月間有効求人数(原数値)が前年度比12.9%増の14,923人に対して、月間有効求職者数(同上)は同18.0%減の35,360人となり、有効求人倍率は0.42倍と前年度より0.11ポイント上昇しました。



■ 鉱工業・大口電力関連: (ふつう)

① 鉱工業生産指数…沖縄県は前年度を上回り、全国は下回る。

年度/月	沖縄県	全国
2010	94.8	94.1
2011	92.2	93.2
2012	-	P 90.0
2012/3	88.7	95.6
4	85.0	95.4
5	100.7	92.2
6	97.4	92.6
7	92.9	91.7
8	96.5	90.2
9	92.9	86.5
10	94.8	87.9
11	100.4	86.7
12	91.9	88.8
2013/1	91.3	89.1
2	98.0	89.6
3	-	P 89.8



注1) 月別は季節調整値、年度は原数値平均値(4～翌年3月)
注2) 基準は2005年=100、注3) P⇒速報値

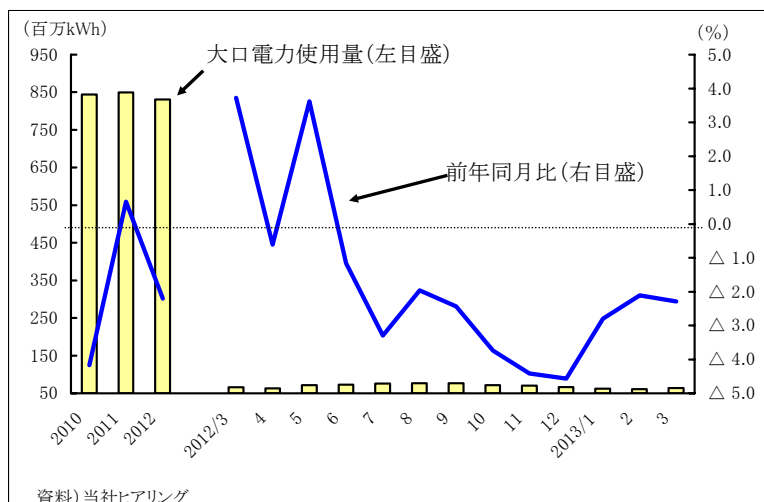
2012年度(4～翌年2月までの11ヵ月平均)の鉱工業生産指数*は、前年度比2.2%上昇し92.3(原指数)となりました。業種別でみると、主に「食品工業(同2.8%増)」や「窯業・土石製品工業(同2.4%増)」、「その他の工業(同5.5%増)」などが前年度を上回り、全体を押し上げました。

※本文内の数値については、現時点で2013年3月(沖縄県)データが公表されていないため、2012年4月～2013年2月までの11ヵ月数値平均と前年度同期間の数値比較を行っています。

② 大口電力使用量…前年度を下回る。

単位: 百万kWh, %

年度/月	大口電力使用量	前年同期比
2010	843.8	△ 4.2
2011	849.3	0.7
2012	830.8	△ 2.2
2012/3	65.5	3.7
4	62.8	△ 0.6
5	71.7	3.6
6	73.0	△ 1.2
7	75.7	△ 3.3
8	76.3	△ 2.0
9	76.8	△ 2.4
10	71.3	△ 3.7
11	69.9	△ 4.4
12	66.4	△ 4.6
2013/1	62.2	△ 2.8
2	60.8	△ 2.1
3	64.0	△ 2.3

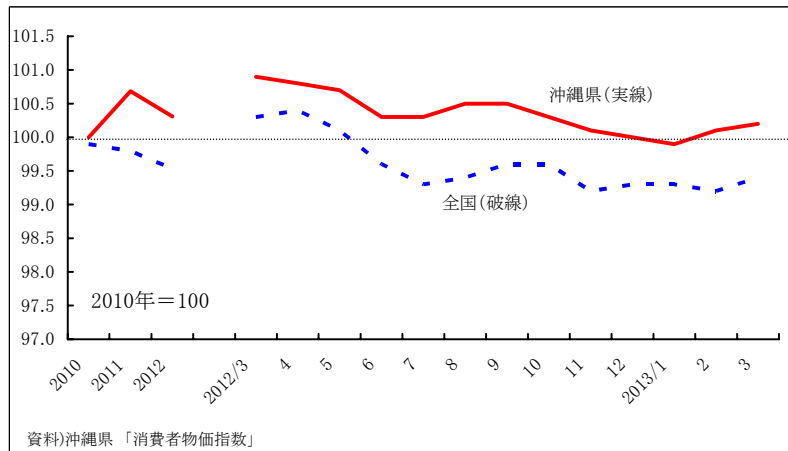


2012年度の大口電力使用量は、「食品製造業(同3.3%減)」や「石油・石炭製造業(同3.6%減)」、「窯業土石製造業(同2.6%減)」等が全体を押し下げ、全体では前年度より2.2%下回り、830.8百万kWh(キロワットアワー)となりました。

■物価関連:  (ふつう)

①消費者物価指数…沖縄、全国ともに前年度を下回る。

2010年=100		沖縄県	全国
2010		100.0	99.9
2011		100.7	99.8
2012		100.3	99.5
2012/3			
		100.9	100.3
	4	100.8	100.4
	5	100.7	100.1
	6	100.3	99.6
	7	100.3	99.3
	8	100.5	99.4
	9	100.5	99.6
	10	100.3	99.6
	11	100.1	99.2
	12	100.0	99.3
2013/1		99.9	99.3
	2	100.1	99.2
	3	100.2	99.4

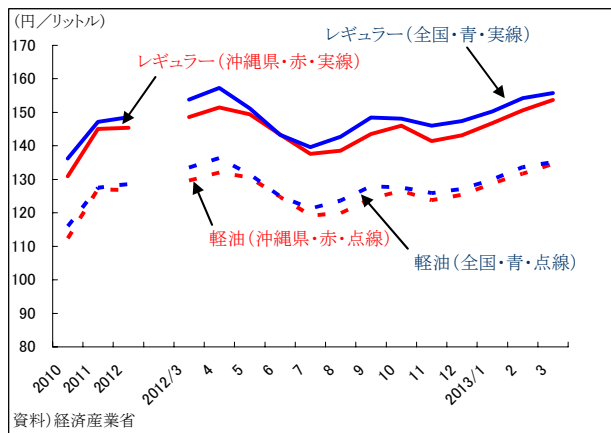


注1) 数値は総合指数
注2) 年度数値は月平均値

2012年度の消費者物価指数は、前年度より0.4%下落し100.3となりました。内訳をみると、「光熱・水道(同1.6%増)」が石油価格高騰の影響等により上昇したものの、生鮮食品を含む「食料品(同1.0%減)」等が減少し全体を押し下げました。他方、全国は前年度比0.3%下落の99.5となり、電気代などの「光熱・水道(同3.4%増)」等で上昇したものの、生鮮食品を含む「食料(同0.6%減)」が全体を押し下げました。

②石油製品小売価格…レギュラーは前年度を上回り、軽油は下回る。

年度/月	沖縄県		全国	
	レギュラー	軽油	レギュラー	軽油
2010	130.9	112.4	136.2	116.0
2011	145.0	127.1	147.2	127.5
2012	145.4	126.7	148.5	128.6
2012/3				
	148.6	129.7	153.8	133.5
	4	151.5	132.0	157.3
	5	149.4	130.6	151.1
	6	143.4	124.7	143.3
	7	137.6	119.2	139.6
	8	138.6	119.9	142.7
	9	143.6	124.2	148.5
	10	146.0	126.5	148.1
	11	141.4	123.8	146.0
	12	143.2	125.4	147.4
2013/1	146.8	128.7	150.3	129.9
	2	150.6	131.7	154.2
	3	153.7	134.6	155.8



注) 上記データは、石油センターの毎月10日現在調査終了に伴い、週次調査の平均値を用いている。
注) 現金小売価格(税込み)である。

2012年度の石油製品小売価格は、原油高騰などを背景に、レギュラー・軽油の小売価格ともにほぼ前年度並みに推移しました。詳細をみると、レギュラー価格が前年度比0.3%増(全国は0.9%増)、軽油価格は同0.3%減(同0.9%増)となりました。